

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	ほのかの里 桜丘		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80番地		
自己評価作成日	平成27年2月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原則や決まり事をみだりにつくるのではなく、お1人おひとりが自由でありのままにお過ごしいただけることを心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0175800259-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ほのかの里 桜丘」は、栗山公園近くの住宅地に立地している1ユニットのグループホームである。隣接して同一法人のデイサービスやグループホームがあり、前庭の畑や東屋で利用者間の交流も行われている。利用者は周囲の散歩や近くのホームセンターで買い物をしたり、馴染みの栗山公園で桜・藤の花や紅葉の見物を楽しむなど、地域に溶け込んで暮らしている。近隣に高齢者が多く住んでおり、法人合同の夏祭りや避難訓練にも大勢の住民が参加している。町主催の研修会に参加したり、栗山赤十字病院の研修医や介護福祉専門学校の実習生を受け入れるなど、町と協力してケアサービスの向上にも取り組んでいる。かかりつけ医の受診には職員が同行し、各主治医と関係を築きながら健康を管理している。計画作成担当と兼務している管理者は介護計画の見直し時には家族とゆっくり話し合い、意向を確認しながら些細な意見をも得てケアに活かし、職員もモニタリングに参加して詳細な介護計画を作成している。管理者は現場の意向を代表者に相談して職員が働きやすいように配慮しており、職員も笑顔で利用者に対応し、個々の意向に沿って外出の支援や美味しい食事で安定した暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に掲示し全職員が理念を共有し心がけ、ケアを実践するように取り組んでおります。	事業所理念の4項目の中に、「地域とともに」の内容を掲げて、散歩中などに住民と会話を交わすなど日常的に交流している。利用者本位のケアを日々話し合い、介護計画に取り込んで理念を実現している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と日常的に挨拶を交わし、交流は継続されております。「お庭に椅子があるから休んでください」と声をかけて頂いたり、会話をすることも多くなりました。	地域の神社祭りには事業所の駐車場に、お神輿を迎える場所を設営し、近所の住民と一緒に参拝できるようにしている。事業所の取り組みを町内会の回覧版に載せて早めに周知し、法人合同の夏祭りや避難訓練に大勢の住民が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療の研修生や学生の実習を受け入れを行うことで、認知症の理解や接し方など日常生活を知っていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の会議は三回の開催予定です。外部評価の報告や日々の生活の様子も報告しております。地域の方やご家族からの助言や感想など聞き入れ、今後は回数を一度でも多く開催し、議事録もご家族に送付するようになりたい。	隣接の同一法人グループホームと合同の会議を3月に予定しており、今年度は3回の開催になっている。町内会から災害時の避難場所などの意見があり、町の担当者参加のもとで、地域全体での防災対策について討議している。全家族に会議案内や議事録は送付されていない。	前回に引き続き、会議回数を増やす方向で具体的な取り組みを期待したい。会議案内にテーマを記載して全家族に送付し、参加が難しい家族の意見も会議に反映できるような工夫とともに、議事録の送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者より、研修会の案内をFAXでいただいたり、ホームに届けて頂いたり、今後、様々な機会でご関わりしていきたいです。	町主催の研修会に参加した職員の報告書を閲覧し、内容を共有してケアに活かしている。栗山赤十字病院の研修医や介護福祉専門学校の実習生を受け入れて、ケアサービス向上のために取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルに禁止の対象となる11項目の具体的な行為を明示、毎日の申し送りやその日のケアを振り返り確認しております。	職員会議で事例をもとに、その都度「身体拘束の禁止行為」11項目を振り返り、理解を深めている。強制的な言葉遣いがないように丁寧に対応している。家に帰りたい利用者には、状況を見ながら散歩に同行し気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	フロア内での、虐待がないか見過されることのないように注意して防止に努めております。虐待行為を発見した時の対応方法を周知徹底していきたい。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がないので、今後は社内や外部研修により参加し知識を向上していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、運営者はご本人、ご家族と面談して契約説明をし、納得した上同意書等の署名、捺印を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱設置の他に、「ご家族ノート」作成。ご家族が来訪時に意見、要望、今後の生活への意向などを記録し職員で内容を共有し統一したケアを目指しております。事業所以外にも外部の人に苦情等を表せる場があること説明していきたい。	来訪頻度が少ない家族には、電話連絡の際に意向を聞いている。介護計画の見直し時には居室でゆっくり意向を引き出したり、丁寧に対応する事で、些細な意見をも得ている。意見などは「ご家族ノート」で利用者毎に記録して把握している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に入居者や設備等のことを職員の意見を集約して管理者が代表者に報告しております。	安全な介護で利用者が安心できるように職員会議で検討し、ベッド・入浴関連の福祉用具を代表者に相談して購入している。代表者、管理者は職員が働きやすいように配慮し、必要に応じて個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は入居者の重度化と介護者の負担軽減を考えて入浴用の車イスやエアマットを購入し労働環境づくりに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への参加は内容を検討し多くの職員が受講できるようにしている。また参加者は研修報告書を提出し職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加することで多種職の方から意見などを聞いて今後もサービスの質の向上に取り組みみたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、職員が同じ対応で関係作りを気づきを共有し合う。不安なことを職員に伝えてもらえるように信頼関係築いております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族とも面談を行い、不安事や生活の意向や要望を聞き入れて出来る限り取り入れるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度必要な支援の優先順位を見極めるよう努めています。早急な対応、柔軟な対応を行い、他のサービスや事業所につなげる対応を心がけております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、個々に対応し、寄り添い、ひとりの人間として関係を築いております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子は来訪時、電話や毎月のお便りで報告しております。こちらが困ったときはご家族に相談し情報や提案を頂いたりしております。ご家族も忙しい中の来訪時なのですがゆっくりと落ち着いて過ごす時間を大切にしている方もおります。共にささえている実感がわかります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後にご本人が会いたいとご家族に話し職員が連絡をし、その後何度も会いにきていただき、職員とも顔なじみになりました。	近隣住宅から入居した利用者には散歩中に声をかけられたり、また近所の方との関係も続いている。家族の協力でお墓参りや馴染みの美容室に出かけている。地元の「栗山公園」が馴染みの場所になっており、季節毎に出かけて楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の人間関係を職員が把握し日々の情報を共有しながらトラブルにならないように詳細の注意をしております。一人一人が孤立しないように職員が目配せし、その時に応じた関わりかたをしております。時には出来ないことを助けたり、教えたりして支え合ったりしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談を頂いた時はできる限り支援できるように心がけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの意向の表出が困難な場合など、仕草や言葉をかけた時の反応などで汲み取るようにしております。ご家族から再度生活の様子を聞き取るなど協力していただいております。	半数ほどの利用者は会話が可能で、希望などを計画に載せて実施している。発語が難しい場合は仕草の様子から問いかけて、思いを把握している。基本情報を1年毎に見直し情報を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にわからない事は介護記録や毎日の申し送り職員から情報を得て再度、家族に聞き取り、繋がりが見えてくる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のできる力を把握し、その時の状況に合わせてお手伝いをお願いしたり、常にご利用者本位で自立に向けて支援しております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員のモニタリングの評価をもう少し詳細に記載できるように考えたい。書くことに促われて、画一的になってきている。職員の意見やアイデア多く取り入れてチームでつくる介護計画を目指したい。	全職員がそれぞれにモニタリングを記録し、計画作成担当者がモニタリング表に集約している。カンファレンスで評価し、利用者本位の介護計画を意識して3か月毎に更新している。日々の記録では計画の目標に沿って利用者の変化なども記録し、見直しに繋げたい意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	より良い記録を目指し、日常の様子を細かくご本人の情報を記入し、気づきやケアに反映させていきたいと思ひ記録の勉強会をしたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状態、ご家族の要望に対してできる限り配慮し対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用して少しでも楽しく過ごせるように支援しております。町内会の行事があればできる限り参加してみたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の要望や希望を取り入れて、入居前に利用していた病院を受診しております。訪問診療も行っております。又ご家族が毎月同行している方もおります。	かかりつけ医を継続しており、その中で訪問診療を受けている利用者もいる。受診時は、ほぼ事業所に対応している。受診内容を利用者毎に保管しているが、医療情報なども含めて整理し、分かり易い記録の管理を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が定期的に訪れております。状態の変化がある方はその都度、相談しており、アドバイスを頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活の場から入院となることで、ご本人の生活環境の変化に対応するのが困難になると予測し、ご本人の支援の方法を細かく情報提供しております。いつでも退院できるように受け入れ態勢を整えております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化対応、終末期ケア対応指針」を作成し契約時に説明し同意を得ております。今後は看取りのケアについても職員の研修があれば参加したい。	利用開始時に重度化の対応や終末期の考えを文章で説明し同意書を得ている。対応指針に入院治療や延命治療を希望する場合は病院の方向を明示している。看取りケアのために医療処置も含めた詳細な文章で家族の意向を再確認するとともに、看取りケア研修への参加を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や看護師から初期対応や応急手当など確認し日頃から職員と話し合っております。今回は研修にも参加し専門職の方からAED使い方や応急手当の対応などを受けて、全職員が対応できるように周知徹底していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春、秋の避難訓練を日中、夜間想定して行っている。春にはたくさん地域の方が参加し、誘導などを実際にお手伝いして頂きました。災害時に備え、ストーブや備蓄品等を保管する物置を設置しております。	消防署立会いで避難訓練を行い、近隣住民が大勢参加している。防災マニュアルに沿って地震などを想定して安全面を確認している。町の救急救命の研修には参加したが、今後は具体的な救急救命訓練の受講を検討している。	今後も地震などを想定したケア別の対応をシミュレーションなどにより、場面毎の確認を期待したい。職員の救急救命訓練の受講を計画的に行うことを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の言葉かけに配慮し誘導するように努めてます。話の内容や口調を注意したり、記録物は事務所内に保管しております。	利用者の人格を尊重した対応を常に心がけ、トイレ誘導時なども耳元で小声で促したり、トイレ内の紙おむつが見えないように目隠しするなどプライバシーに配慮して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で個々に分かり易い言葉で声をかけたりし、色んな場面でご本人が決める場面作りに工夫しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや要望や思い、体調にあわせ、日々の生活できるように支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の乱れや汚れに対してプライドを大切にさりげなくカバーしております。意思表示ができない方は職員が一緒に考え、気持ちに沿った支援を心懸けております。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みの食べ物を聞いて献立を変更することもある。嗜好や食事形態を理解し楽しめる献立の工夫などに努めております。	利用者の希望や旬の新鮮な食材を使い季節感のある美味しい食事を提供することをモットーに法人の役員が献立を作っている。刻み食・ペースト食など食事形態を工夫して最期まで食べられる支援をしている。利用者はもやしのひげとりなどに参加し職員とともに楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスを考慮し、その方の状況により、お粥やペースト食、刻み食を提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、促しを行い、介助が必要な方は職員が行っております。月2回訪問歯科を受診される方がおりますが口腔内の状況や指導を受けております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の身体能力により個々に対応しております。尿意や便意がある方はその都度対応し排泄間隔や排泄パターンのある方は随時対応しております。	排泄記録を見て個別にトイレ誘導を行い、「トイレで排泄する」ことを重視している。紙おむつの使用を最小限とし布パンツにするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品を提供し体操や運動をできるように支援しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は曜日で決めてますが、入りたくない日は無理せず体調みて入浴されています。重度化があり入浴用の車イスを購入しましたが、浴槽内に入る時は職員2名体制で安全に配慮して行っております。お湯の温度など個々の好みに合わせて入浴されております。	入浴は毎日入れる体制で、週2回以上を基本としている。入浴の回数、温度、時間なども利用者の希望を聞き、ゆったりと楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日中の活動量や体調、年齢など生活リズムを考慮しながら、居室の温度、湿度などに配慮し安心して眠れるように支援しております。眠れないときは寄り添い傾聴、飲み物の工夫等をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用を理解し、服薬の支援を行っております。薬の変更時は職員全体に周知させ体調の変化に注意しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる力が個々に違うので、その方に合った会話や活動を生かせる時間と場の提供に努めている。役割が負担にならない声掛けにも配慮しつつ、喜び楽しみにつながるよう支援していきたい。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や気温、体調に合わせて季節を感じていただくように支援しております。ドライブしながら季節の花を楽しむことや近くの畑で野菜の収穫をしたり、敷地内にある東屋で休むことなど、地域の方からも声をかけていただいております。	近隣の散歩、前庭の畑で栽培した野菜の収穫、敷地内の東屋や玄関前のイスに腰掛けて地域住民と交流するなど日常的に戸外に出かけている。また個別支援として少人数でホームマックに買い物に行ったり、ドライブなどで公園やバラ園などに出かけ季節感を楽しむ機会を多くもっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら連絡をとりたいと希望はないが、ご家族などから連絡があれば電話まで誘導し話していただくように支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その月のカレンダーを張ったり、リビングの窓から見える景色で季節の移り変わりを感じたり、余暇活動で作った季節の作品を室内に張る工夫をしております。	燦々と光が入る窓際には利用者が手入れする観葉植物が置かれ、食卓とソファからは前庭の畑、人や車の往来、季節の移ろいなどを見ながら落ち着いた時間を過ごせるスペースになっている。加湿器を置き、湿度と温度が管理され清潔で快適な環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自の居室で思い思いに過ごしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置や写真やカレンダーなどそれぞれ自由に持ってきて飾っている。	各居室にクローゼットが設置されている。利用者の生活スタイルに応じて布団で寝たり、自力で起き上がりや寝返りのできない方にはエアマットレス・介護ベッドなど、個別の状態に応じたベットや椅子などの家具を配置している。馴染みの身の回り品、思い出の写真などを飾り居心地よい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、浴室、廊下に手すりが設置されている。玄関には座れる長椅子や外にはスロープも設置されております。危険がないように物の配置に配慮しております。近くにある畑にもスロープを設置しております。		

目標達成計画

事業所名 ほのかの里 桜丘

作成日：平成 27年 3月 30日

市町村受理日：平成 27年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の回数が少ない。ご家族に案内や会議議事録を送付していない。	ご家族に運営推進会議のテーマを決めて案内を送付し、その後の議事録も送付する。	全家族に会議内容の議題を決めた案内を送付し、ご家族が一人でも多く参加できるように、関心を持っていただけるように会議後の議事録も送付するように取り組む。	1年
2	35	救急救命の講習を受けていない。	救急救命の講習を計画的に行う。	全職員が救急救命の講習に参加をする。	1年
3	35	避難訓練以外にも色々な災害を想定した訓練が必要。	ケアの場면을想定し訓練をする。	介護中やその時々々の場면을想定した話し合いをして、シミュレーションをする。	1年
4	26	モニタリング評価の記録が画一的である。	変化や新しい課題を抽出した記録を目指したい。	各入居者様に職員の担当を決めて、観察力や責任感を持つ取り組みをする。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。